

令和6年8月1日

報道機関各位

青森県立美術館副館長

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 開催のご案内（追加情報 第7弾）

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会は、2024年4月13日（土）から9月1日（日）まで青森県内にある5つの美術館・アートセンターで「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」を開催中です。閉幕までおよそ1ヶ月となり、9月1日（日）のフィナーレを前に5館共通の企画、栗林隆《元気炉》が8月9日（金）より青森県立美術館を皮切りに5館を巡回します。さらに、県内の高校生を対象に、一步踏み込んだ作品鑑賞を体験してもらう「高校生サマープログラム」を実施します。

つきましては、栗林隆《元気炉》の巡回情報などをまとめたプレスリリース vol.7 および高校生サマープログラムの案内チラシを提供いたしますので、周知についてご協力いただくとともに、今後の取材の参考にしていただきますようお願い申し上げます。

記

1 添付資料

- ・AOMORI GOKAN アートフェス 2024【リリース Vol.7】
- ・AOMORI GOKAN アートフェス 2024 高校生サマープログラム 案内チラシ

2 申込方法

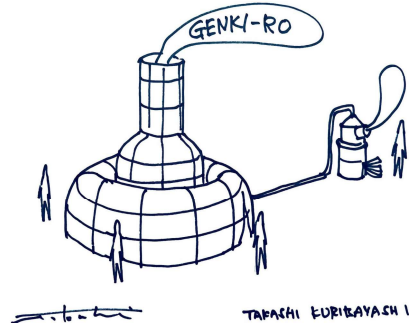
- ・8/9（金）栗林隆《元気炉》：別紙の参加申込書により事前申込
- ・8/10（土）高校生サマープログラム：会場のスタジオに直接集合

報道機関用提出資料（連絡先）	
担当	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 事務局（青森県立美術館内） 担当：蓑島、櫻庭
電話番号	017-783-3000
アドレス	bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
所属長	青森県立美術館 副館長 境谷 孝司

青森県初のアートフェス！閉幕まであと1ヶ月

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりのはらっぱ」
共通企画 栗林隆 《元気炉》 プレス内覧のご案内
2024年8月9日（金） 青森県立美術館

《元気炉》火入れ 16:00 - (受付 15:45-) エントランス集合
《元気炉》稼働 17:00 - 18:00 (受付 16:45-) エントランス集合



左) 栗林隆 《元気炉》2022年 《蚊帳の外》ドクメンタ15、ドイツ・カッセル)より Photo Rai Shizuno
右) 栗林隆 《元気炉》ドローイング

現代美術を楽しむ青森県内5つの美術館・アートセンターで4月13日（土）より開催中のAOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのはらっぱ」は、閉幕まで1ヶ月となりました。9月1日（日）のフィナーレを前に、5館共通の企画、栗林隆《元気炉》が8月9日（金）より青森県立美術館を皮切りに5館を巡回します。

栗林は空間の内と外、自然と人間、人間同士の間にある境界など、あらゆる時代や場所に存在する「境界」に目を向け、その意味を問い直すような作品を制作してきました。《元気炉》は原子炉の形状をした構造物に薬草の香りを帯びた蒸気を発生させ、観客が中に入る体験型の作品です。作品を稼働する美術館でも各地域に自生する薬草をブレンドして使用。栗林が海外で発表した《元気炉》の映像作品も展示予定です。

また本アートフェスでは、「Aomori GENKI-RO Trip」と題して、青森の各地域に伝わる郷土音楽からジャズ、クラシックなど、地元で活動する奏者たちと音楽家の辰田翔がライブ演奏を行います。さらに写真家で映像作家の志津野雷も同行しその様子を記録します。《元気炉》は2024年のテーマである「つらなりのはらっぱ」を体現するように、青森5館を旅し、各地域に継承される伝統文化や人々との交流をかさねながら、本アートフェスのフィナーレを飾ります。

開催にあたり、巡回初日の8月9日（金）、青森県立美術館において、作品とイベントを体験いただくプレス内覧会を行います。当日は栗林隆氏をはじめ、辰田翔氏や志津野雷氏も参加予定です。ご多忙とは存じますが、ぜひこの機会に取材していただけますようご案内申し上げます。16時から《元気炉》稼働のため火入れを予定しております。また18:00より（～21:00迄）一般の方も参加されますので取材を続けて行う場合はご留意ください。プレス内覧会にご参加いただける場合は、別紙参加用紙をメール、またはFAXでお送りください。

▼栗林 隆《元気炉》 「Aomori GENKI-RO Trip」巡回情報 *参加無料(飲食費別)

「Aomori GENKI-RO Tript」は栗林隆《元気炉》や映像作品の展示とともに、音楽家・辰田翔と地元を拠点に活動する奏者たちとのライブ演奏、さらにエリアごとにドリンクやフードの出店もあり、アーティストと参加者が共に楽しめる企画です

1) 青森県立美術館

- 展示期間 8/9 (金) -8/11 (日) *8/10 はナイトミュージアム開催、夜間開館
- 場所 創作ヤード(屋外トレンチ)
- 作品稼働日 8/9 (金) 18:00-21:00、8/10 (土) 18:00-20:00
- イベント
 - ・8/9 は青森県庁ねぶた実行委員会囃子方とのコラボレーションによる音楽イベントを実施します。
 - ・8/9、10 は「青い森珈琲焙煎所」によるキッチンカーが出店します。

2) 青森公立大学 国際芸術センター青森

- 展示期間 8/14 (水)・8/15 (木)
- 場所 展示棟 水のテラス付近
- 作品稼働日 8/14 (水)・8/15 (木) 両日 18:00-20:00
- イベント 8/14、15 とともに民謡と三味線による音楽イベントを実施予定です。8/14 は焼き鳥屋台と飲み物の出店を予定しています。

3) 八戸市美術館

- 展示のみ 8/18 (日) 10:00-21:00
8/19 (月)、21 (水) 両日 10:00-19:00
- 場所 美術館内「スタジオ」
- イベント 5 館で唯一、本作を屋内で展示する八戸市美術館。音楽や、各館展示の様子をまとめた映像と共に作品を鑑賞いただきます。また 8/18 は作品の中に特設されたバーや、美術館広場でフードを販売します。

4) 十和田市現代美術館

- 展示企画 8/24 (土)・8/25 (日)
- 場所 美術館 前庭
- 作品稼働日 8/24 (土) 17:00-19:00
- イベント 8/24 の 17:00-は、十和田市内で活躍している音楽バンドによる演奏を行います。併せて美術館併設のカフェ cube では営業時間を延長し、ソフトドリンクやアルコール、栗林氏の関連グッズを販売。《元気炉》周辺には、手押し車に木造の屋台テーブルを乗せた作品《YATAI》を展示し、《YATAI》を囲みながらドリンクを提供します。

5) 弘前れんが倉庫美術館

- 展示 8/28 (水) -9/1 (日)
- 場所 土淵川吉野町緑地(弘前れんが倉庫美術館前)
- 作品稼働日 8/30 (金) -9/1 (日) 全日 17:00-20:00 *8/30、31 は夜間開館
- イベント 8/30、9/1 は、弘前ゆかりの音楽家や、自ら制作した土器の太鼓「縄文太鼓」をジャポニズムとアフリカンを融合した独自の演奏スタイルで独奏する太鼓演奏家・茂呂剛伸が登場します。8/30から9/1まで、L PACK.によるイベント《いっしょくたにへば たげめぐなるはんで》を開催。オリジナルの屋台で、コーヒーやクラフトビールが楽しめます。

- 音楽イベントの参加者・団体などの詳細情報は 8/9 以降に配布する資料でご案内します -

▼アートフェス 関連イベント

●弘前れんが倉庫美術館 L PACK. 《いっしょくたにへば たげめぐなるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》

8月30日(金) - 9月1日(日) 全日 17:00-20:00 *参加無料(飲食費別)

【会場】 土淵川吉野町緑地(弘前れんが倉庫美術館前)



L PACK. Photo: Koichi Tanoue

アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指すL PACK。(小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット)。フェスの最後を締めくくる3日間、栗林隆の《元気炉》の展示とともに、宵宮や屋台など地域の身近な文化から着想された体験型の作品を発表します。

クラフトビールを製造する「Be Easy Brewing」(弘前市)、津軽地域で長年親しまれている駄菓子「大王当て」を製造する「佐藤製菓」(弘前市)、全国の自然栽培の野菜を販売しフードロスにも取り組む「青果ミコト屋」(神奈川県横浜市)とコラボレーションした屋台が出店予定です。

●弘前れんが倉庫美術館 「Shuta Hasunuma “unpeople 360° + 1 people #13”」

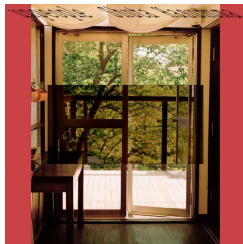
8月31日(土) 19:00- *事前予約制

【会場】 cafe & shop BRICK(弘前れんが倉庫美術館併設)

【料金】 4,400円 ※当日、別途ワンドリンクの注文が必要

※高校生以下無料(要証明書提示/高校生以下は予約不要)

【主催】 windandwindows



蓮沼執太の最新アルバム『unpeople』を複数のスピーカーを使って立体音響化したサウンド・パフォーマンス「Shuta Hasunuma “unpeople 360° + 1 people #13”」を開催します。

▶FAX03-6369-3596 または ▶E-MAIL aomoriart-gokan@nanjo.com
AOMORI GOKAN アートフェス 2024 広報事務局 (N&A 内)

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりのはらっぱ」

[共通企画] 栗林 隆 《元気炉》 プレス内覧 参加申込書

2024 年 8 月 9 日 (金) 会場：青森県立美術館

各集合：青森県立美術館 1F エントランス

出席します 16:00 - [受付 15:45] 作品への火入れ

出席します 17:00-18:00 [受付 16:45] 作品稼働

ご出席の場合のみ、必要事項を記載の上、本状をご返信ください

◎貴社名：

◎部署名：

◎媒体名/番組名：

※フリーの方は担当される媒体名を記載してください

◎お名前(代表者)：

◎参加総人数： 名

◎MAIL：

◎放映・掲載予定日： 月 日

◎TEL：

◎FAX：

▼撮影について▼

あり (ムービー・スチール)	なし
----------------	----

▼アーティスト栗林 隆氏への囲み取材

参加する	参加しない
------	-------

稼働している作品を長時間体験されると着衣が濡れる場合があります。
水着やタオル、着替えなど各自でご用意いただくことをおすすめします。

- ・撮影については当日配布する「撮影に関する注意事項」に従いご協力をお願いいたします。
- ・当日は 18 時より一般の方も参加されます。撮影時のご配慮をお願いいたします。

<アクセス> 青森県立美術館 〒038-0021 青森市安田字近野 185
JR 青森駅から車で約 20 分 /JR 新青森駅から車で約 10 分
青森空港から車で約 20 分

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 高校生サマープログラム

現在、開催中の「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」。青森県内にある5つの美術館・アートセンターが連携し、各館の特徴を活かした展覧会に加え、シンボル作品として栗林隆の《元気炉》が各館を巡回します。関連して、県内の高校生50名を対象に、一步踏み込んだ作品鑑賞を体験してもらう「高校生サマープログラム」を実施します。哲学研究者の永井玲衣さんをゲスト講師に、集まったみなさんと一緒に「哲学対話」をもとにしたワークショップ、そして《元気炉》の鑑賞をします。新しい見方や考え方に触れられると同時に、対話×現代美術作品のおもしろさをたっぷり味わってもらえる内容です！

〔日時〕 8月10日(土) 13:30 - 16:00 (受付開始 13:15)

〔会場〕 青森県立美術館 スタジオ (現地集合、解散)

〔定員〕 50名 [参加費] 無料 *展覧会をご覧になる場合、別途要観覧料

〔申込み〕 QRコードより担当教諭が一括で申込み **【※切:8/3(土)正午】**

〔その他〕 県立美術館⇄新青森駅、青森駅間のバスを特別運行



栗林隆《元気炉》2022年(《蚊帳の外》ドクメンタ15、ドイツ・カッセル)より
上) Photo: Takashi Kuribayashi 下) Photo: Tatsuya Ichikawa



お申込みはこちら

<https://forms.gle/GXhfi7R9sKbtwYiL9>

特別運行バス

【行きのバス】

12:40 青森駅→12:55 新青森駅→13:10 県立美術館着

【帰りのバス】

16:45 県立美術館→17:00 青森駅→17:15 新青森駅

*お申込み時に、バスの利用の有無をお知らせください。
詳細は、申込み後にご案内します。

《元気炉》イベント

当日 18:00 からは《元気炉》が稼働し、作品の中の空間で、野生の植物や薬草を使ったスチームサウナを実際に体験できるイベントが開催されます。以降、AOMORI GOKANの各館を巡回するので、別日に改めて体験することもできます！



各館への巡回スケジュール

ゲスト講師の紹介

永井玲衣 | 哲学研究者

哲学研究と並行して、学校・企業・寺社・美術館・自治体などで哲学対話を幅広く行っている。哲学エッセイの連載なども手がける。独立メディア「Choose Life Project」や、坂本龍一・Gotch 主催のムーブメント「D2021」などでも活動。

主な著書に「世界の適切な保存」(講談社、2024年)、「水中の哲学者たち」(晶文社、2021年)。



哲学対話って、なに？

複数人で、ひとつのテーマ(問い)について話しながら考えを深めていく場、そしてそこで行われる対話のこと。

「問いを立てる」、「なんだか気になっていることを、ちょっと立ち止まってじっくり考えてみる」。

そんな体験の後に改めて作品を見てみると、きっといつもより深掘りができるはず！